

第4回 行動経済学ワークショップ

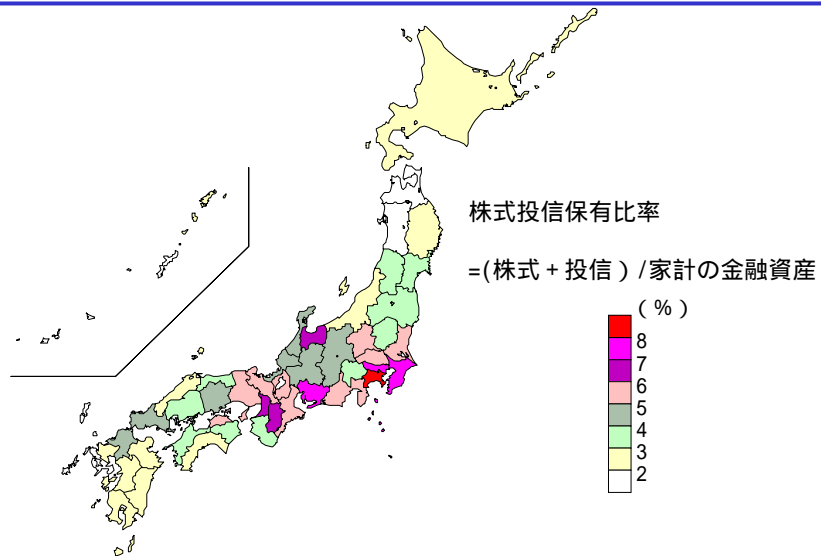
2005年11月26日 大阪大学(千里ライフサイエンスセンター)

個人の投資リスク許容度の地域別格差

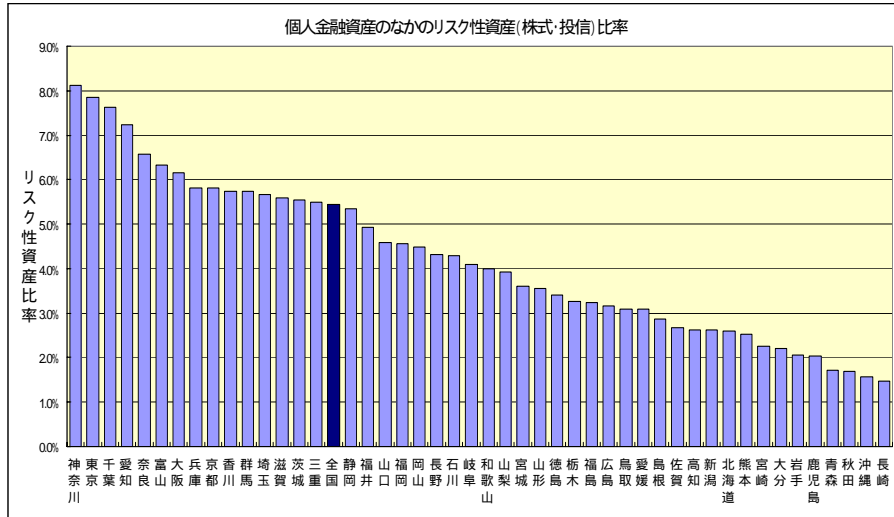
なぜ株式や投信の保有比率は都道府県ごとに違うのか？

山口勝業・元利大輔
イボットソン・アソシエイツ・ジャパン

リスク性金融資産の保有比率

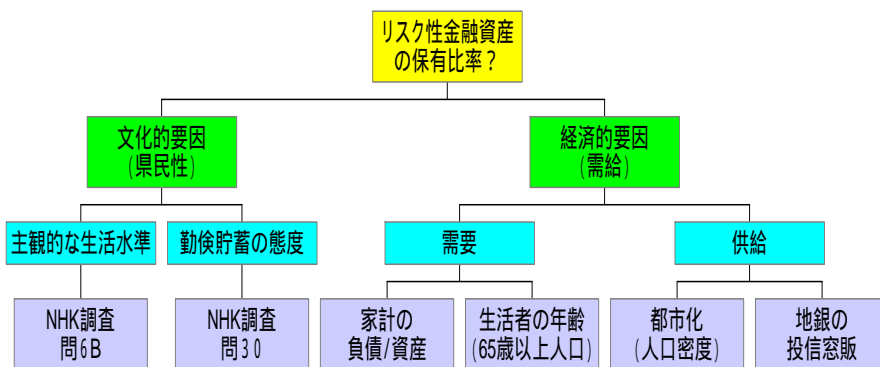


リスク性金融資産の保有比率



分析へのアプローチ

個人のリスク許容度の地域別格差の要因



県民意識の統計調査

- NHK放送文化研究所が1996年に実施。
- 全国47都道府県、16歳以上の42,000人を対象。
- 有効回答29,620人(70%)

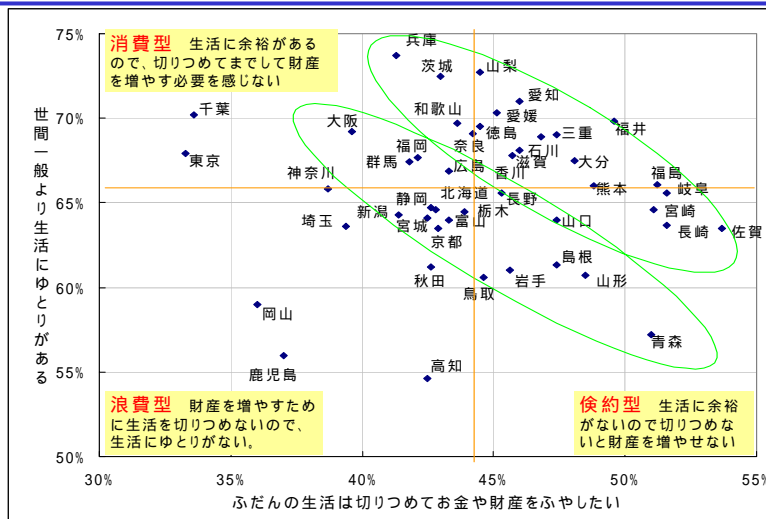
第6問B

「ふだんの生活はできるだけ切りつめてお金や財産を残したい」
)) 「そう思う」

第30問

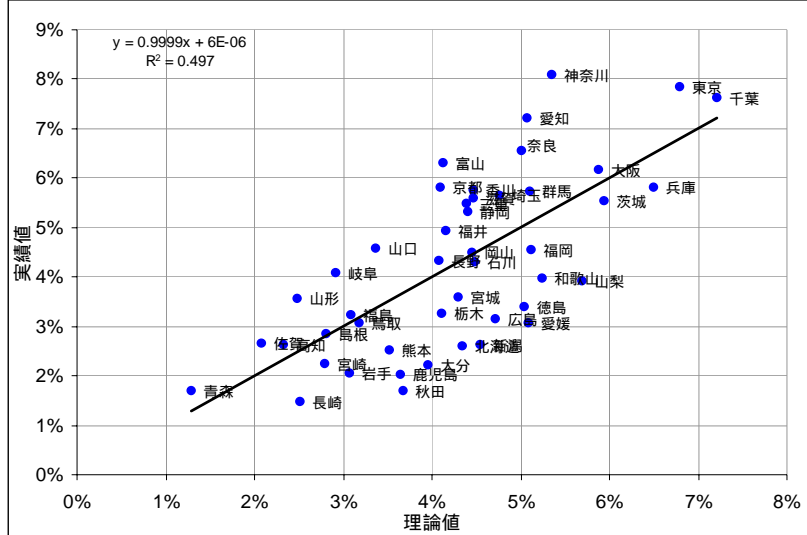
「世間一般に比べて、お宅の暮らしむきはリストのように大ざっぱにわけると、どれに近いでしょうか」
)) 「ゆとりがあるほうだ」+「多少ゆとりがあるほうだ」

生活水準と勤儉貯蓄の県民性



出所: NHK放送文化研究所「現代の県民気質」1997

県民性2ファクター・モデル



©2005 Ibbotson Associates Japan

7

リスク性金融資産が普及する経済的要因

	需要 (家計)	供給 (金融機関)
B/S要因	家計B/Sのリスク負担力 = 負債/貯蓄	銀行の投信販売姿勢 (地銀) = 投信残/資金量
人口要因	ライフサイクル仮説 = 65歳以上人口比率	金融機関の店舗数 = 人口密度

©2005 Ibbotson Associates Japan

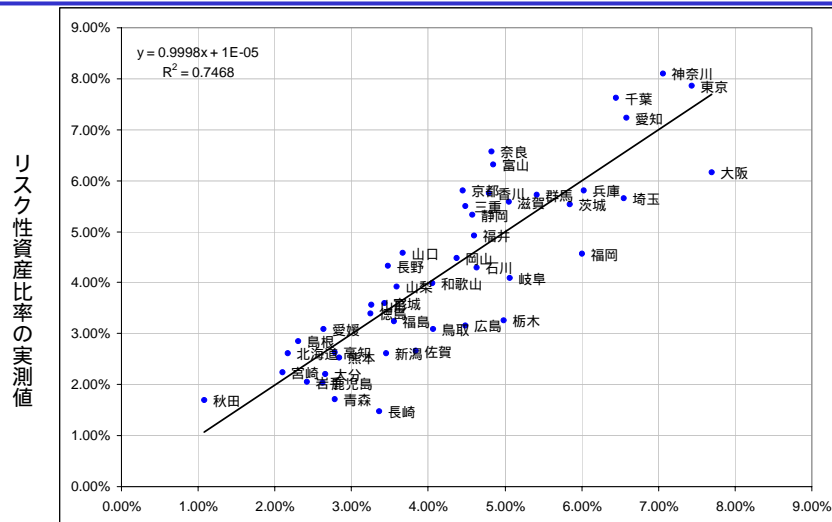
8

経済要因による回帰分析

モデル	R-squared	Adj R-sq	定数項	ダミー	D/E	65歳以上	人口密度	普及率
	0.482	0.458	1.561	-1.890	-0.324			
			5.74	-6.26	-2.80			
	0.558	0.537	0.523	-0.633		-0.561		
			1.67	-1.76		-4.07		
	0.592	0.573	-0.111	0.135			0.812	
			-0.29	0.30			4.65	
	0.541	0.519	0.549	-0.664				0.537
			1.70	-1.79				3.79
	0.654	0.629	0.740	-0.896	-0.327	-0.564		
			2.57	-2.71	-3.42	-4.58		
	0.681	0.658	-0.512	0.619			0.690	0.419
			-1.39	1.43			4.30	3.42
	0.702	0.673	0.144	-0.175	-0.284	-0.370	0.475	
			0.41	-0.42	-3.10	-2.67	2.57	
	0.749	0.718	-0.228	0.276	-0.218	-0.326	0.430	0.319
			-0.64	0.65	-2.47	-2.52	2.50	2.74

(注)各欄の下端イタリック体の数値はt値である。

経済4ファクター・モデルの回帰分析



4ファクター・モデルの理論値

地域ブロック別では誤差が少ない

地域	実績値	理論値	乖離	都道府県
北海道・東北	2.6%	2.7%	0.0%	北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島
関東	5.8%	5.6%	0.1%	茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨, 長野
北陸	4.5%	4.4%	0.2%	新潟, 富山, 石川, 福井
東海	5.5%	5.2%	0.4%	岐阜, 静岡, 愛知, 三重
近畿	5.7%	5.4%	0.3%	滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山
中国	3.6%	3.8%	-0.1%	鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口
四国	3.7%	3.4%	0.4%	徳島, 香川, 愛媛, 高知
九州	2.5%	3.3%	-0.8%	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島

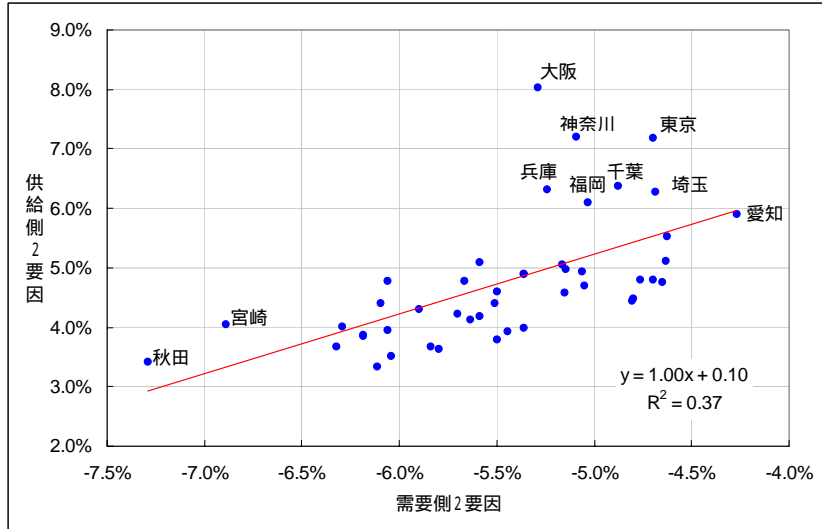
県民性か、経済要因か？

県民性要因だけをとれば、それなりに説明力があるが...

R-squared	Adj R-sq	定数項	D/E	65歳以上	人口密度	普及率	勤儉貯蓄	生活水準
0.248	0.231	0.000					-0.498	
		0.00					-3.81	
0.266	0.249	0.000						0.516
		0.00						3.99
0.497	0.474	0.000					-0.481	0.499
		0.000					-4.443	4.615
0.747	0.722	0.000	-0.239	-0.327	0.365	0.290		
		0.00	-2.93	-2.54	2.61	2.72		
0.780	0.746	0.000	-0.230	-0.258	0.289	0.244	-0.177	0.168
		0.00	-2.93	-2.00	2.06	2.36	-1.96	1.86

経済要因とともに考慮すると、県民性はさほど重要でない

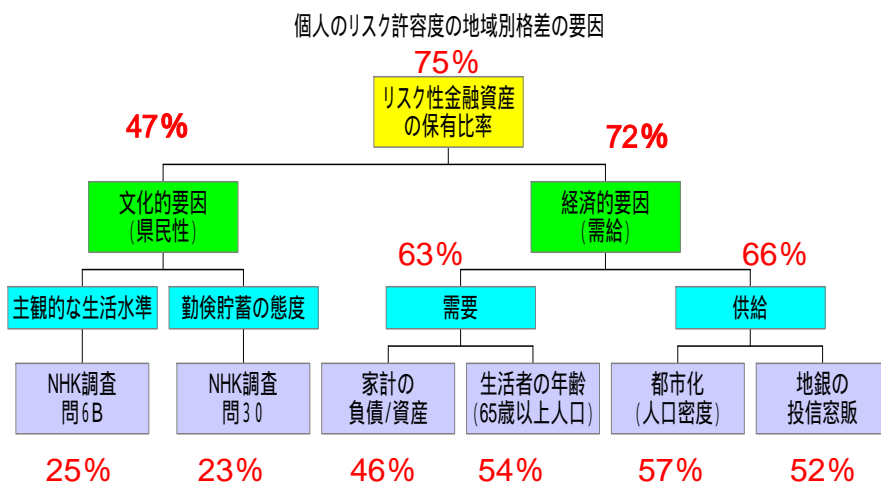
需要要因と供給要因の対比



©2005 Ibbotson Associates Japan

13

まとめ：決定係数



©2005 Ibbotson Associates Japan

14